

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

| | |
|-------|------------|
| 制作団体名 | 有限会社 劇団風の子 |
| 公演団体名 | 劇団風の子 |

| |
|--|
| <p>内容</p> <p>事前に各学校にワークショップの内容と目的、準備していただくもの等の明細をお送りします。各学校で参加学年を決めていただきます。Youtubeにて作品のダイジェスト版をご覧くださいことが出来ます。</p> <p>①舞台美術として展示する作品を作ります。ひとつのキーワードからそれぞれが自由に発想し、段ボールや新聞紙、布などの身近な素材を使って思い思いの作品を作り、それらを舞台装置として生かします。</p> <p>③身体や顔の体操、表現遊びをし、次第に心も身体も解放していきます。その後グループに分かれて、額縁を使って切り取られた空間の中で絵になる表現をします。タイトルやキーワードからイメージした一人ひとりの発想と表現を大事にします。</p> |
|--|

| |
|--|
| <p>タイムスケジュール（標準）</p> <p>8:00_ 10:30~11:15_ 11:20~12:05_ 13:30_ 14:30_ 14:45_ 16:00</p> <p>設営 ワーク① ワーク③&リハーサル 開演 ↑ 終演 撤去開始 撤去終了</p> <p>↑ 児童の参加 ↑ 児童の出演</p> <p>一日の中でワーク・リハーサル・本公演を行います。</p> |
|--|

| |
|---|
| <p>派遣者数</p> <p>4名（キャスト3名+スタッフ1名）</p> |
|---|

| |
|--|
| <p>学校における事前指導</p> <p>特にありません。</p> |
|--|

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

| | |
|-------|------------|
| 制作団体名 | 有限会社 劇団風の子 |
| 公演団体名 | 劇団風の子 |

| |
|---|
| 演目 |
| 「ソノヒカギリ美術館」 |
| 原案/村井昌世 作/ソノヒカギリ美術館製作委員会 構成・演出/大潤弘幸 美術/ナカムラジン 身体表現/原田亮 音楽/青柳拓次 制作/浅野井優子 |
| 【キャスト】 大堀鷹/藤本秀男/伊藤玲菜（予定） |

| |
|-------------------|
| 派遣者数 |
| 4名（キャスト3名+スタッフ1名） |

| |
|--|
| タイムスケジュール（標準） |
| 8:00_10:30~11:15_11:20~12:05_____13:30_14:30_14:45_____16:00 |
| 設営 ワーク① ワーク③&リハーサル 開演 ↑ 終演 撤去開始 撤去終了 |
| ↑ 児童の参加 ↑ 児童の出演 |
| 一日の中でワーク・リハーサル・本公演を行います。 |

| |
|--|
| 実施校への協力依頼人員 |
| 本番中に学芸員が忘れきてしまった絵が届いた。という設定があります。どなたか1名の先生に絵を届けていただく場面があります。 |

演目解説

ソノヒカギリ美術館は言葉の通りその日一日限りの美術館です。子どもたちが美術館を訪れるお客さんという設定で、ストーリーはありますが、子どもたちと俳優が創り上げるその日ならではのライブ感のある体験型演劇です。

【あらすじ】

ソノキニ・ナールさんとソノバ・シノギさんはソノヒカギリ美術館の学芸員です。毎日あちらこちらで一日限りの美術館を開催しているのですが、今日はこの小学校の体育館でソノヒカギリ美術館を開くことになりました。校長先生から依頼のお電話をいただいたのです。

児童の皆さんがやってきました。あら大変、まだ準備中なのに！あわてて大きな箱を開いたり包みを解いたりする二人。そこに一人の子どもが迷い込んできました。名前はアキ。

アキは箱の上に乗ったり、包んであった大きな紙をガサガサしたり放り投げたりして遊び始め、ナールとシノギはちっとも仕事はかどりません。展示された立派な美術作品さえもアキにとっては格好の遊び相手。ナールとシノギは何とか準備を進めようとしますが、ついアキのペースに乗せられて二人も遊び始めてしまいます。

遊んでいるうちにシノギが額縁の中に閉じ込められて絵になってしまいました。アキとナールはどうしたらシノギを助け出すことができるでしょうか。ソノヒカギリ美術館は無事オープンできるのでしょうか！？

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- ・ワークショップでは、アイスブレイクとして「手あそび」などをして子どもたちの心と身体を解放できるように進行します。
- ・子どもたちが作る作品や表現が本番の中で重要な役割を担っていることを伝えながら、一緒にお芝居を作る場を楽しめるように声掛けをします。
- ・作品作りをとおして、一人ひとりの表現が他者の表現とつながり、重なり、呼応して、それが芝居の中で生きる喜びを体感してほしいと願っています。

児童生徒とのふれあい

- ・お芝居の後半では美術館がオープンし、鑑賞しながら退場します。そこまでがお芝居です。舞台にある展示された絵や造形物を近くでみるすることができます。学芸員（出演者）が展示作品の解説などを行います。